

2024学校評価

# 学校評価

## 調査結果と考察



葛城市立新庄北小学校

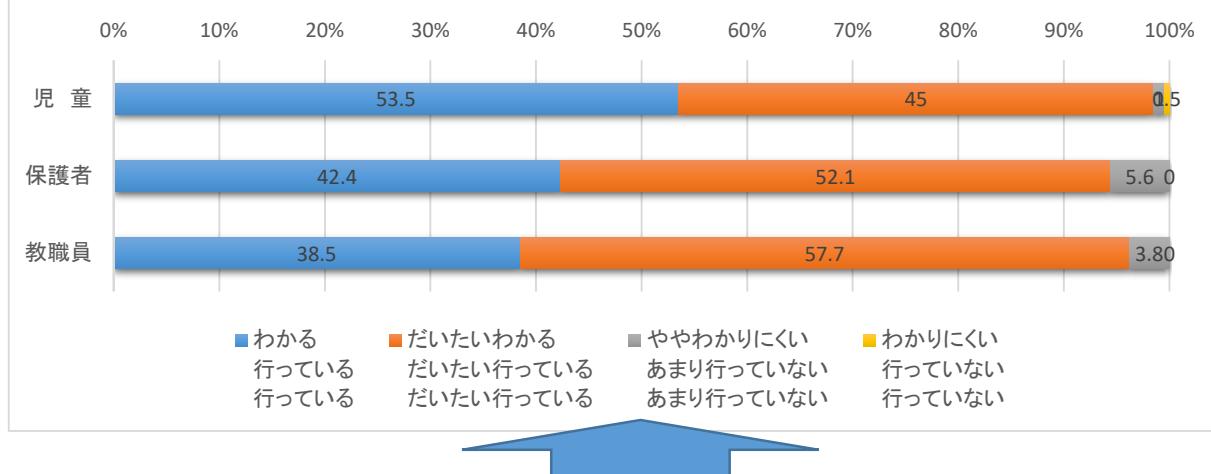
## 調査結果と考察

### ①「分かる授業」「楽しい授業」の充実

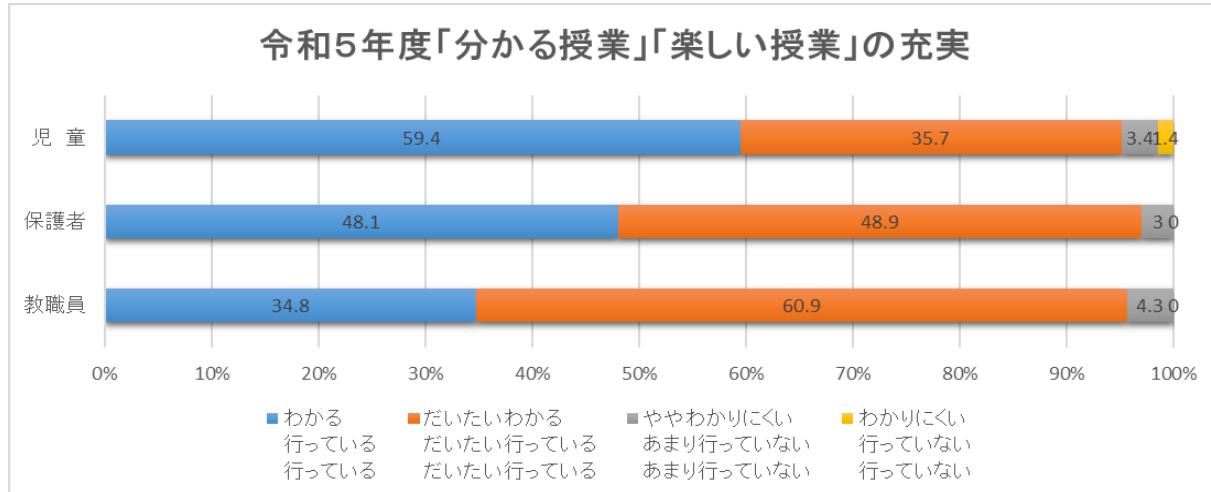
対象	質問事項				
児童	あなたにとって、授業はわかりやすいですか？				
保護者	教員は、わかりやすい授業を行っていると思いますか？				
教職員	学校やあなたは、子どもたちにとって、わかりやすい授業や支援を行っていると思いますか？				

	わかる 行っている 行っている	だいたいわかる だいたい行っている だいたい行っている	ややわかりにくい あまり行っていない あまり行っていない	わかりにくい 行っていない 行っていない	(%)	児童	202名
児童	53.5	45	1	0.5		児童	202名
保護者	42.4	52.1	5.6	0		保護者	144名
教職員	38.5	57.7	3.8	0		教職員	26名

### 令和6年度「分かる授業」「楽しい授業」の充実



### 令和5年度「分かる授業」「楽しい授業」の充実



授業に対する肯定的な意見は、児童が98.5%、保護者が94.5%、教職員が96.2%となっている。アンケートの結果から、昨年度に引き続き、教師がわかりやすい授業を心がけているとともに、児童・保護者とも、授業について概ね「わかる授業」「楽しい授業」を行っていると感じているといえる。今年度も『読むこと』(国語科)に重点を置いて「正しく深く読む力を育てる国語科の授業」というテーマにして、授業研究を進めた。また、タブレットを活用した授業が定着してきていることも肯定的な回答につながっていると考えられる。今後もここ数年取り組んできた読むこと(読解力)の力を育てながら、他の教科の学力向上につなげていくことが大切である。タブレットをより効果的に活用しながら授業を組み立てていく授業改善にも合わせて取り組んでいかなければならぬと考える。

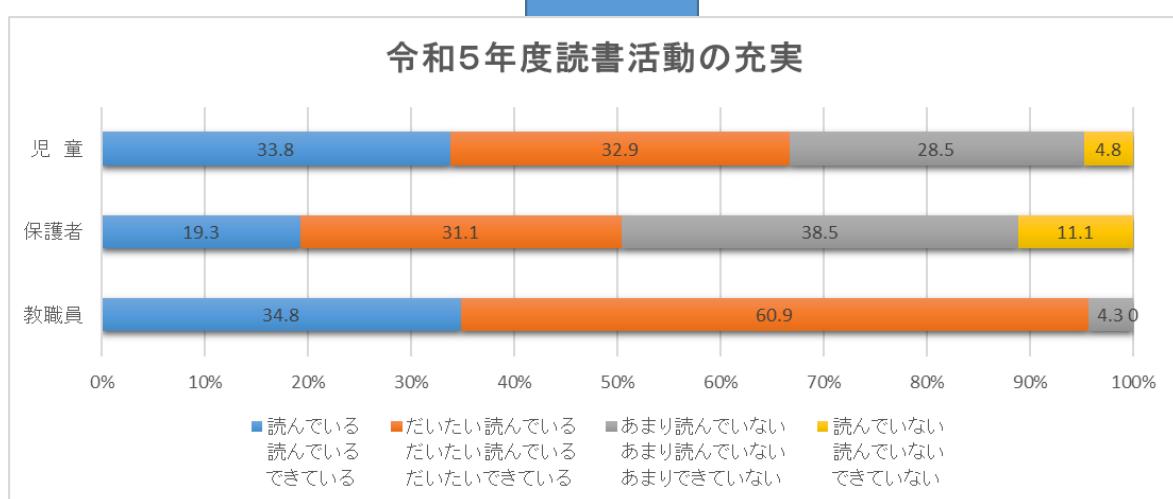
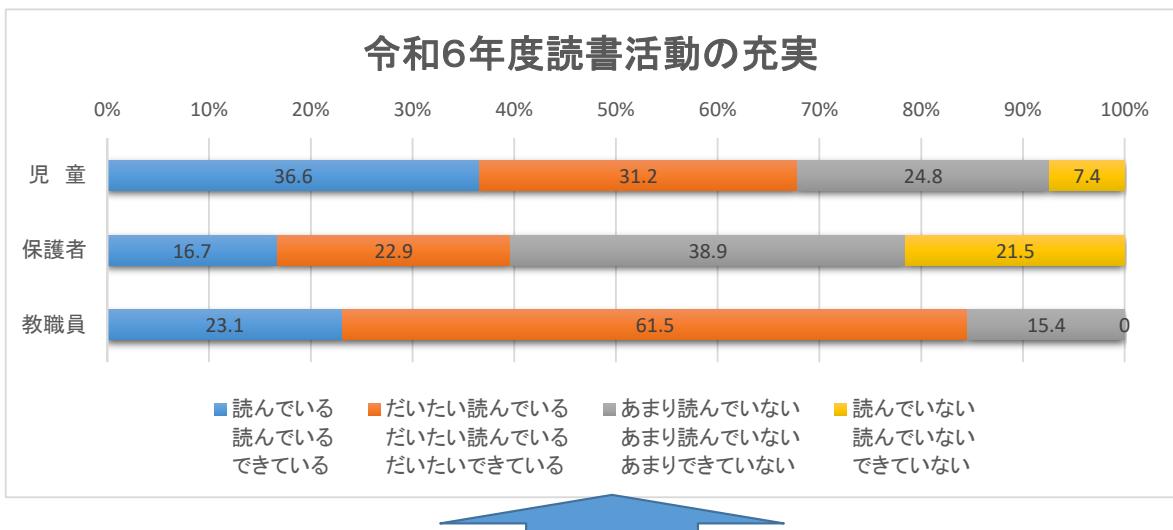
また、1.5%の児童が「ややわかりにくい」「わかりにくい」と回答している。個々の学習状況を丁寧に把握し、必要な児童への手立てや基礎基本の反復練習も考えて実践していきたい。

## 調査結果と考察

### ②読書活動の充実

対象	質問事項				
児童	あなたは、普段よく本を読んでいますか？				
保護者	お子様は、普段よく本を読んでいますか？				
教職員	学校やあなたは、本に親しめる子どもを育てることができていますか？				

	読んでいる 読んでいる できている	だいたい読んでいる だいたい読んでいる だいたいできている	あまり讀んでいない あまり讀んでいない あまりできていない	讀んでいない 讀んでいない できていない	(%)
児童	36.6	31.2	24.8	7.4	児童 202名
保護者	16.7	22.9	38.9	21.5	保護者 144名
教職員	23.1	61.5	15.4	0	教職員 26名



児童は「読んでいる」「だいたい読んでいる」が67.8%となり昨年と大きく変化はなかった。一方保護者と教職員は10ポイント減少し、それぞれ39.6%と84.6%であった。

昨年度から実施している月曜日と金曜日の「朝読書」は子ども達の中で定着してきている。各学級、全校でのビブリオバトルを行い、本に興味・関心をもたせる取組も継続している。また、図書館補助員の方と連携をし、図書室前に時期やテーマで本の特設コーナーを設置するなどの新たな取り組みもしている。

教職員のポイント減少の要因としては、図書に関する取組が子どもたちに定着していることで、学級での声かけが減ってきていることが考えられる。意図的に声かけをして、「読書をする」「本に親しむ児童」を育っていくこと意識して指導にあたることが大切である。放課後も、読書をする時間の確保の難しさなど世の中の活字離れなど環境面が考えられる。

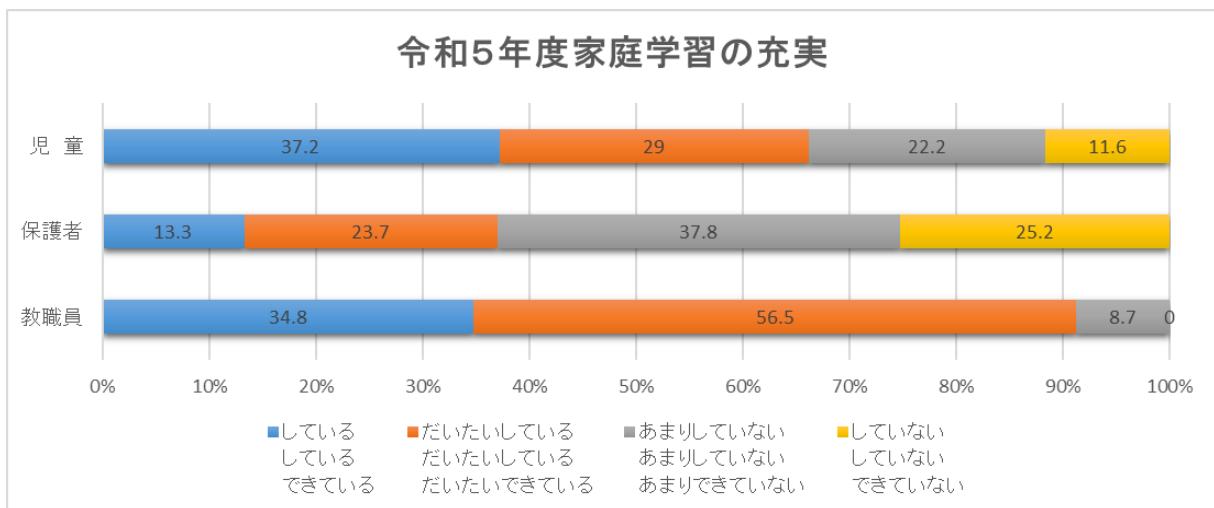
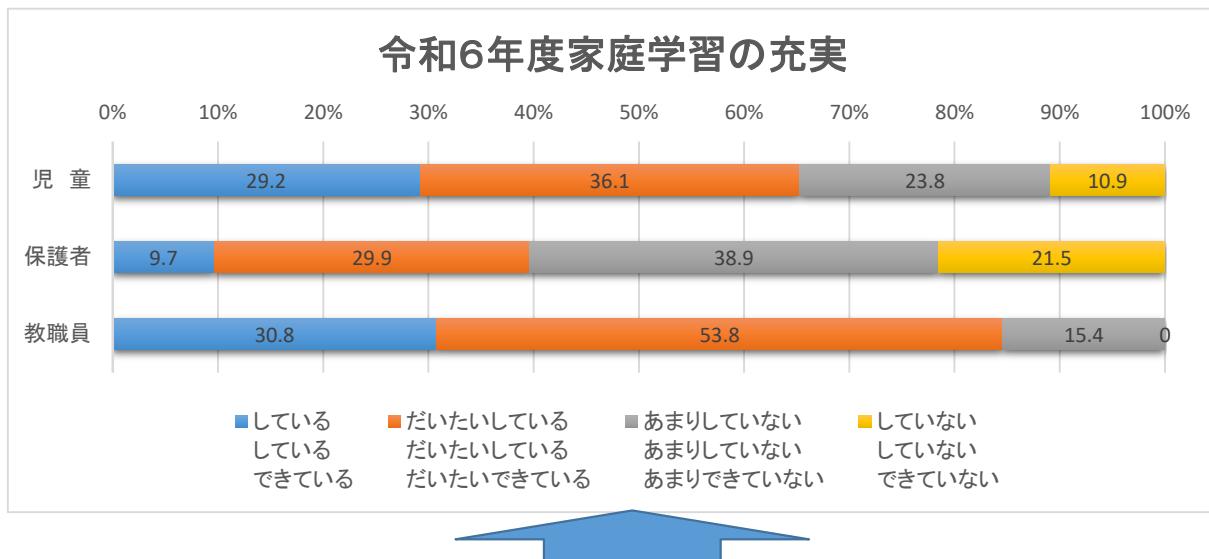
次年度は、小学校の時期に「本に触れる、親しむ」機会をできるだけ多くもつるように学校・家庭で意識して取り組んでいきたい。現在実施している読書活動を継続していくことで、「読書好き」の子どもが一人でも多く育つようにしていきたい。

## 調査結果と考察

### ③家庭学習の充実

対象	質問事項			
児童	あなたは、お家で宿題や習い事以外で自分で自主的に学習していますか？			
保護者	お子様は、お家で宿題や習い事以外で自分で自主的に学習していますか？			
教職員	学校やあなたは、自主学習をする子どもを育てることができていますか？			

	している している できている	だいたいしている だいたいしている だいたいできている	あまりしていない あまりしていない あまりできていない	していない していない できていない	(%)
児童	29.2	36.1	23.8	10.9	児童 202名
保護者	9.7	29.9	38.9	21.5	保護者 144名
教職員	30.8	53.8	15.4	0	教職員 26名



自分で自主的に学習していると肯定的に回答している児童は65.3%。保護者の肯定的な回答は39.6%。教職員は84.6%となっている。

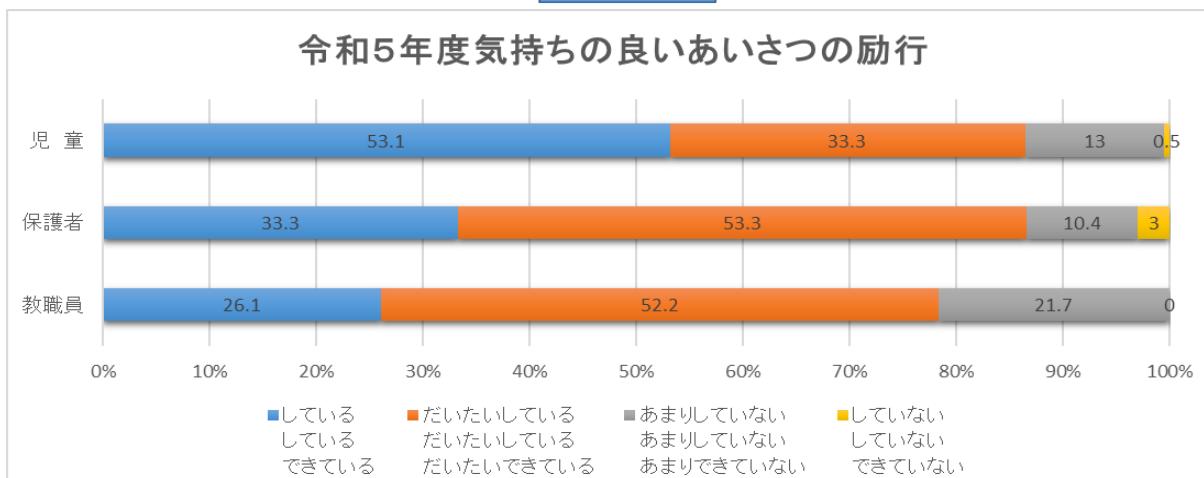
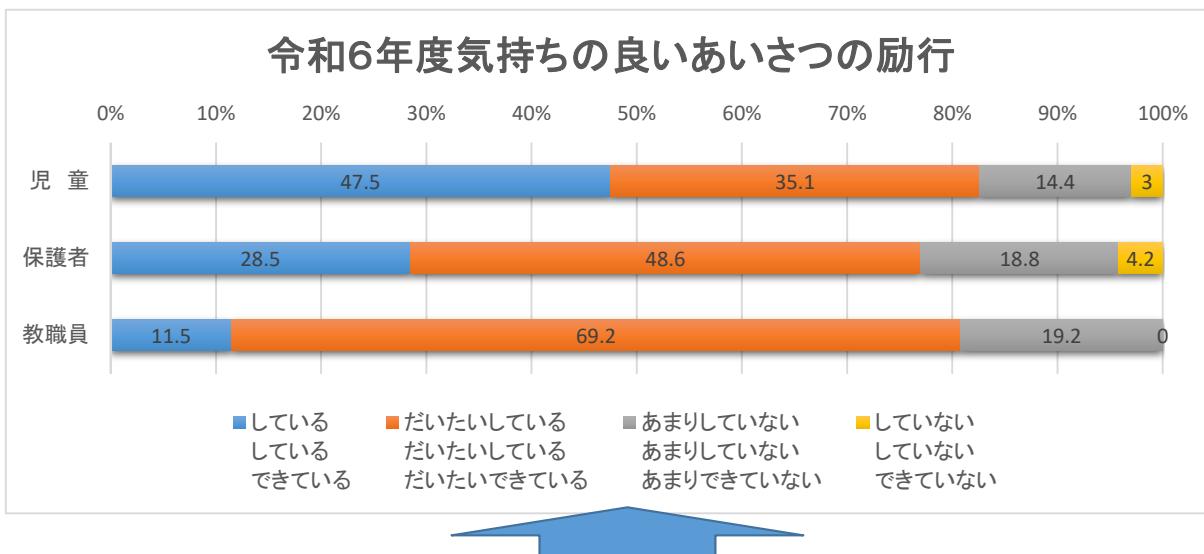
今年度も、「家庭学習の手引き」を配布したり、ノートの書き方や学習の仕方を児童が互いに学び合えるよう、教室や昇降口に自主学習ノートも掲示してきたりして取組を進めてきた。自主学習ノートが、宿題として定着してきている。一方、昨年度に引き続き児童は4割程度、保護者も6割程度が否定的である。自主学習の取組については、二極化していることが考えられる。自主的に学習している実感を感じることができない中には「何をすればいいのか」不確かなまま取り組んでいる児童もいるように思われる。再度学年ごとに自主学習のやり方を例示しながら、取り組んでいくことができるよう声かけ、指導していきたい。授業でも児童が自ら課題を設定し、解決に向けて情報を収集・整理・分析をしたり、周囲の人と意見交換・協働していく探究学習を積極的に取り入れるなどをして意識を高めていきたい。

## 調査結果と考察

### ④気持ちの良いあいさつの励行

対象	質問事項				
	あなたは、気持ちの良いあいさつをしていますか？				
児童	お子様は、気持ちの良いあいさつをしていますか？				
保護者	あなたは、気持ちの良いあいさつができる子どもを育てることができていますか？				

	している している できている	だいたいしている だいたいしている だいたいできている	あまりしていない あまりしていない あまりできていない	していない していない できていない	(%)	
					児童	202名
児童	47.5	35.1	14.4	3	児童	202名
保護者	28.5	48.6	18.8	4.2	保護者	144名
教職員	11.5	69.2	19.2	0	教職員	26名



児童は「能做到」「能做到但不常做到」が昨年度から3.8%減少し82.6%であった。その中でも「能做到」の回答は5.6%減少して47.5%となった。子ども達の中で全体的にあいさつの意識が低下してきていることが伺える。保護者も「能做到」「能做到但不常做到」が昨年度86.6%だったのが今年度77.1%に減少した。教職員は「能做到」「能做到但不常做到」が78.3%から80.7%増加している。しかし「能做到」の回答は26.1%から11.5%と半分以下となっている。今年度も5年生が中心となりあいさつ運動を1年間実施している。下校時には、教師が校門にたちあいさつをしている。あいさつができるような取組を行ってきたが、あいさつについての意識はアンケートでは下がってきている。昨年度の分析でも書いたが、あいさつは教職員や保護者などの大人がお手本となるようなあいさつをすることが大切である。教職員自身があいさつの意味について考え、それを指導につなげていくことが大切である。教職員自ら気持ちの良いあいさつを行うことで、自らあいさつができる児童を育てることができます。児童のコミュニケーションを広げる第一歩のあいさつを大切にしていきたい。

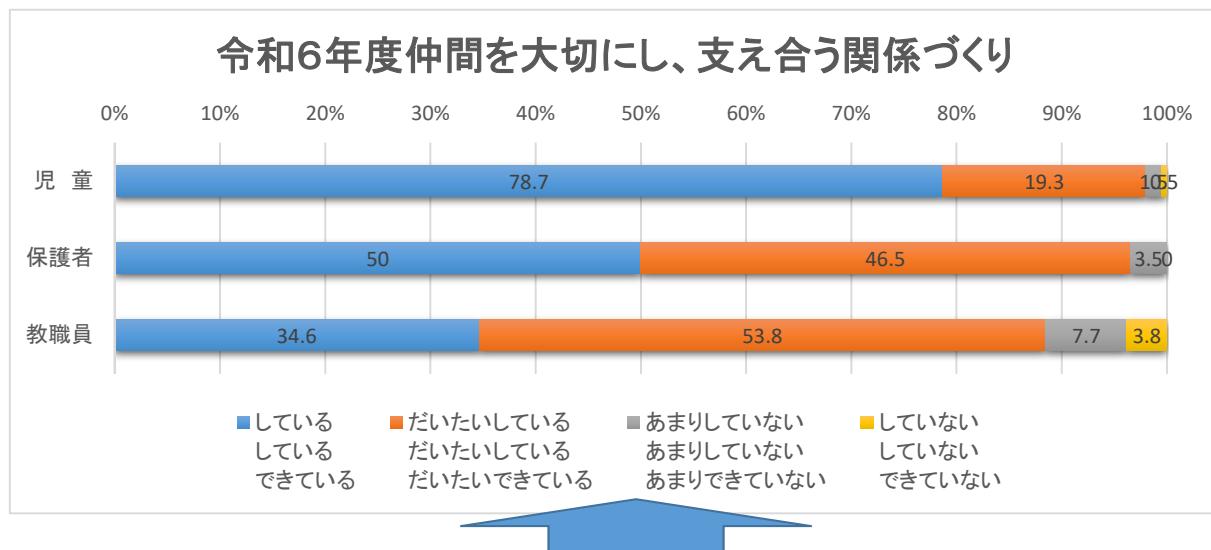
## 調査結果と考察

### ⑤仲間を大切にし、支え合う関係づくり

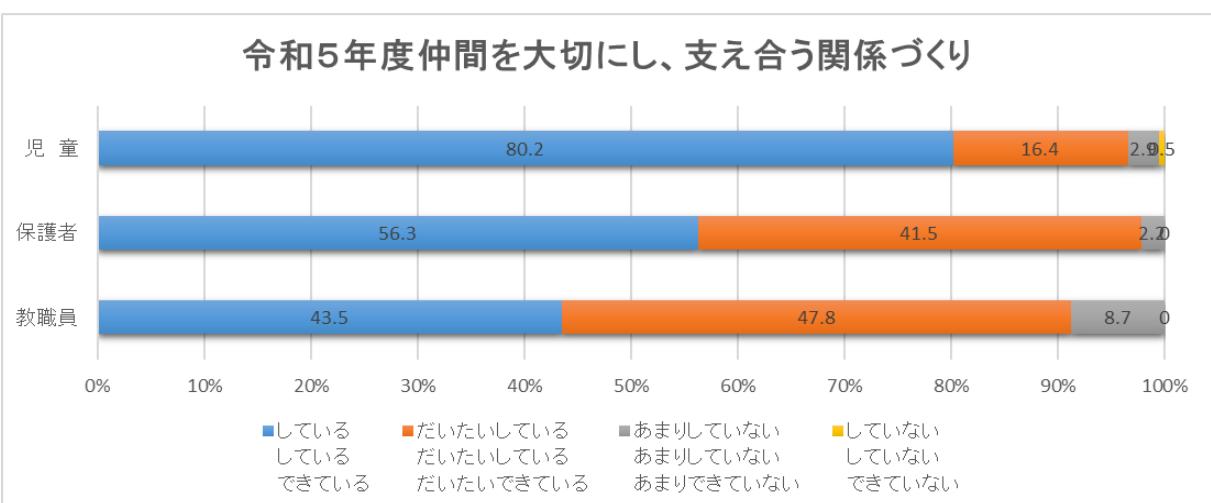
対象	質問事項			
児童	あなたは、友達を大切にし、協力したり助けたりしていますか？			
保護者	お子様は、友達を大切にし、協力したり助けたりしていますか？			
教職員	学校やあなたは、仲間を大切にし、支え合う関係ができる子どもを育てることができていますか？			

	している している できている	だいたいしている だいたいしている だいたいできている	あまりしていない あまりしていない あまりできていない	していない していない できていない	(%)
児童	78.7	19.3	1.5	0.5	児童 202名
保護者	50	46.5	3.5	0	保護者 144名
教職員	34.6	53.8	7.7	3.8	教職員 26名

### 令和6年度仲間を大切にし、支え合う関係づくり



### 令和5年度仲間を大切にし、支え合う関係づくり



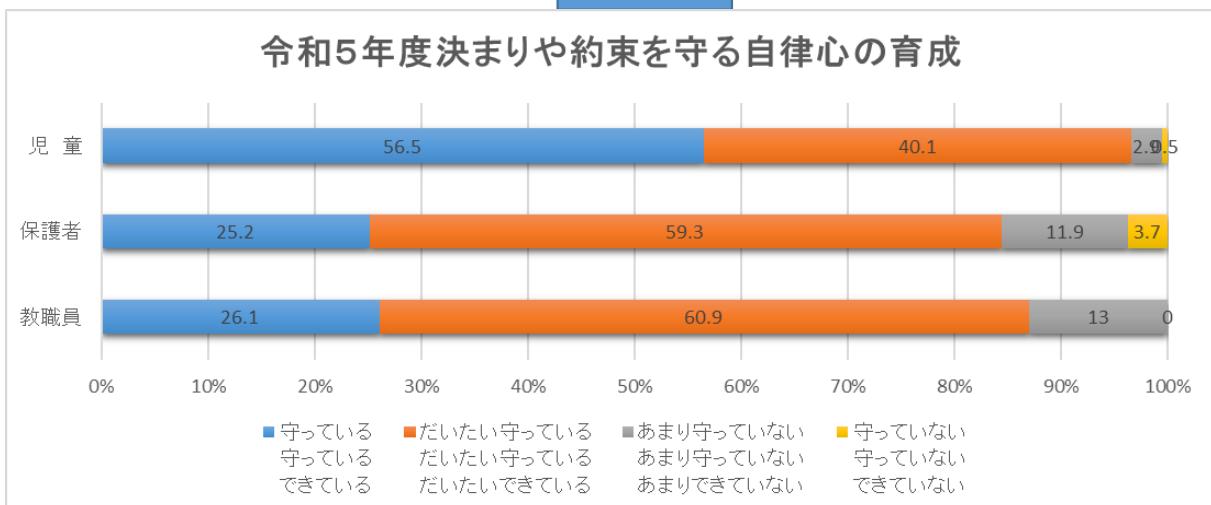
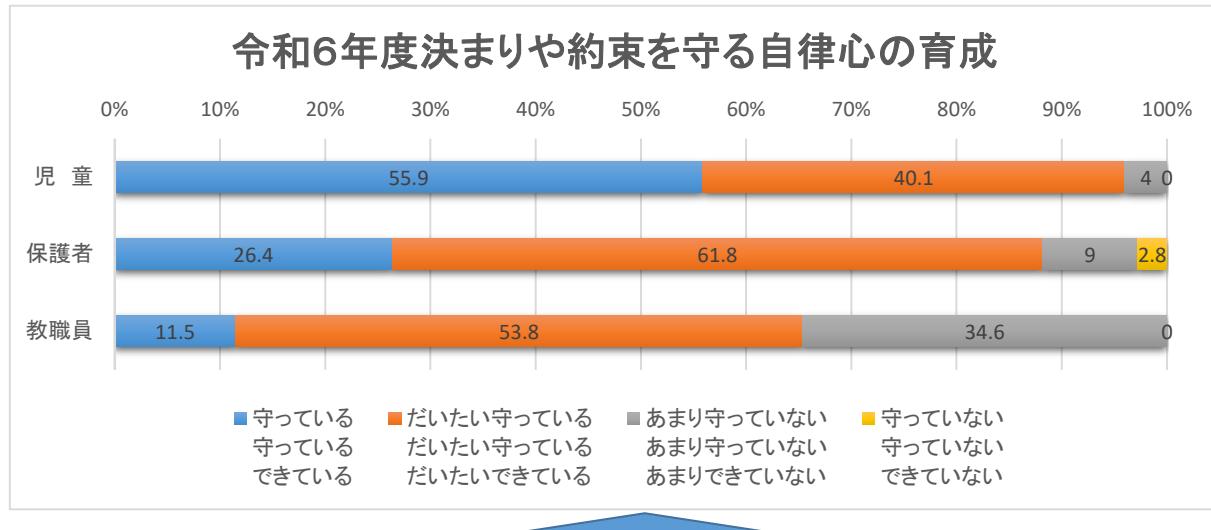
児童の肯定的な回答は98.0%、保護者は96.5%、教職員は88.4%である。学校へタブレットなどICTが導入され、一人で学習する機会が以前に比べると多くなっている。人と関わり対話しながら集団生活を送ることも大切である。今年度本校では、異学年で活動するチャレンジ班、北幼稚園との交流、地域ボランティアさんとの活動など多く行っている。人権学習に関わっても、各学年による人権集会や全校による人権集会を行うことで、一人ひとりが人権問題について考え、発表を行っている。今後も、さまざまな人との関わりを通して、なかま意識の向上、支え合える関係の深まりを目指していきたい。何よりも児童一人一人の様子をしっかり把握し孤立している児童がいいいか、困っている児童がいれば声をかけて指導・支援をしていきたい。また、保護者と連携し、「早期対応」「子どもに寄り添う指導」することを常に心がけていきたい。

## 調査結果と考察

### ⑥決まりや約束を守る自律心の育成

対象	質問事項				
児童	あなたは、決まりや約束を守って生活をしていますか？				
保護者	お子様は、決まりや約束を守って生活をしていますか？				
教職員	学校やあなたは、決まりや約束を守る子どもを育てることができていますか？				

	守っている 守っている できている	だいたい守っている だいたい守っている だいたいできている	あまり守っていない あまり守っていない あまりできていない	守っていない 守っていない できていない	(%)
児童	55.9	40.1	4	0	児童 202名
保護者	26.4	61.8	9	2.8	保護者 144名
教職員	11.5	53.8	34.6	0	教職員 26名



児童の96.0%、保護者の88.2%、教職員の65.3%が肯定的な評価である。児童・保護者は昨年度と大きく変わらないが、教職員が20ポイント減少している。子どもたちに主体性を持たせ活動させることで、守らないといけないことがしっかりとやりきれていない場面があることが要因と考えられる。子どもの主体性を育成する中でも教職員は見守りながら、指導すべきことは声かけをしっかりとしていかなければいけない。また、学校には、様々な決まりや約束があるが、細かなルールなども含め、しっかりと守れるように、決まりや約束がある意義を子どもたちに伝え、学校全体・学年・学級で適宜指導を行っていきたい。そして、教職員も「北小っ子のくらし」について共通理解を深め、たくさん目の目で一人ひとりの児童を見守り、保護者の方にも、ご理解、ご協力をいただけるように、粘り強く指導・支援をしていきたい。

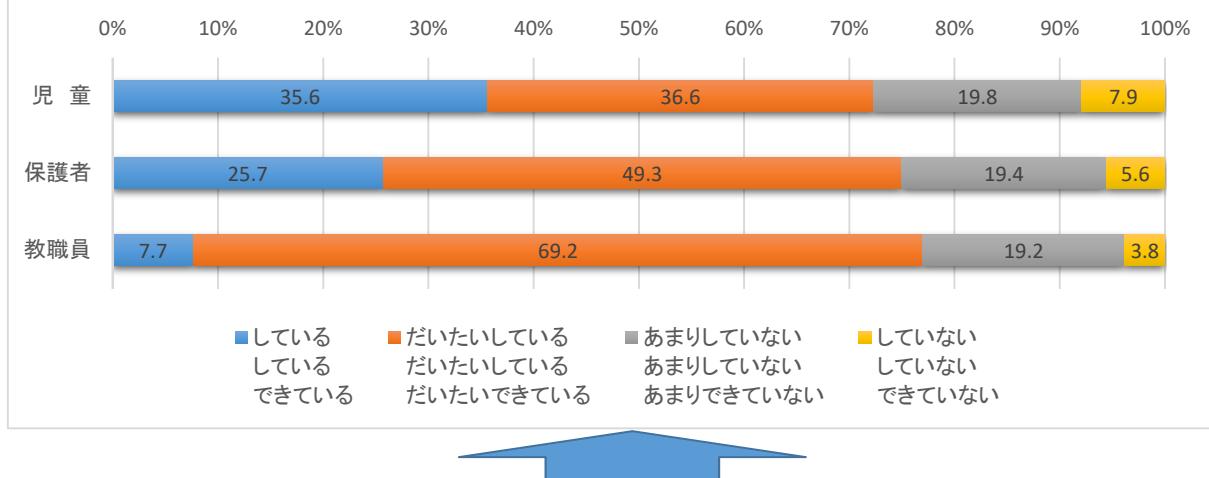
## 調査結果と考察

### ⑦基本的な生活習慣の定着「早寝 早起き」

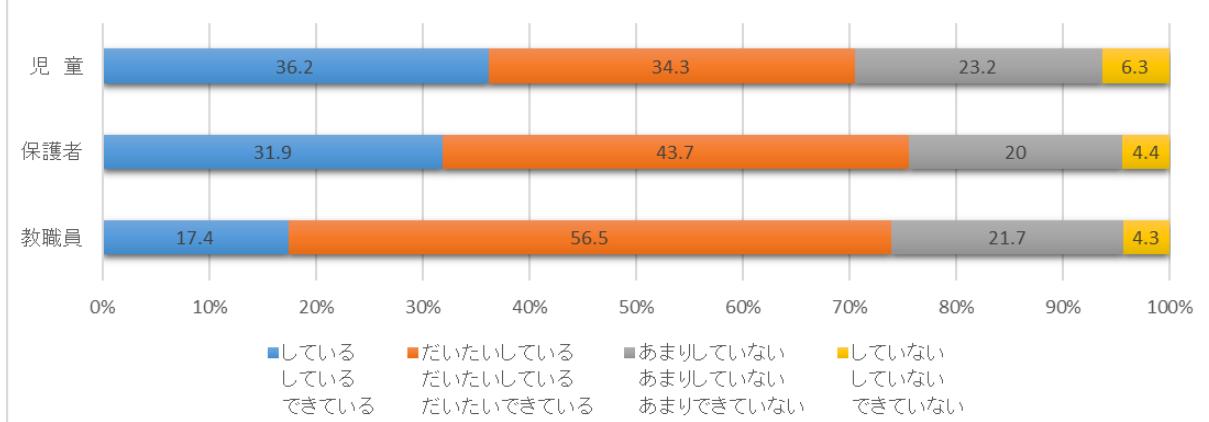
対象	質問事項			
	あなたは、早寝、早起きをしていますか？	お子様は、早寝、早起きをしていますか？	学校やあなたは、早寝、早起きができる子どもを育てることができていますか？	
児童				
保護者				
教職員				

	している している できている	だいたいしている だいたいしている だいたいできている	あまりしていない あまりしていない あまりできていない	していない していない できていない	(%))			
						児童	202名	保護者 144名 教職員 26名
児童	35.6	36.6	19.8	7.9				
保護者	25.7	49.3	19.4	5.6				
教職員	7.7	69.2	19.2	3.8				

### 令和6年度基本的な生活習慣の定着「早寝 早起き」



### 令和5年度基本的な生活習慣の定着「早寝 早起き」



児童の72.2%、保護者の75.0%、教職員の76.9%が肯定的な回答で昨年度と大きく変化はなかった。しかし児童を除く保護者・教職員の「している」が10ポイントと大きく減少している。一方で、児童、保護者、教職員の4分の1が生活リズムに課題があると捉えている。

社会の生活習慣が以前とは変わってきているが、小学校の時期の子どもにとって、早寝早起きなどの睡眠時間の確保はもちろんのこと、栄養のバランスの良い食事の摂取、運動遊びなどの適度な運動を行うことが学力向上や体力向上につながっていく。

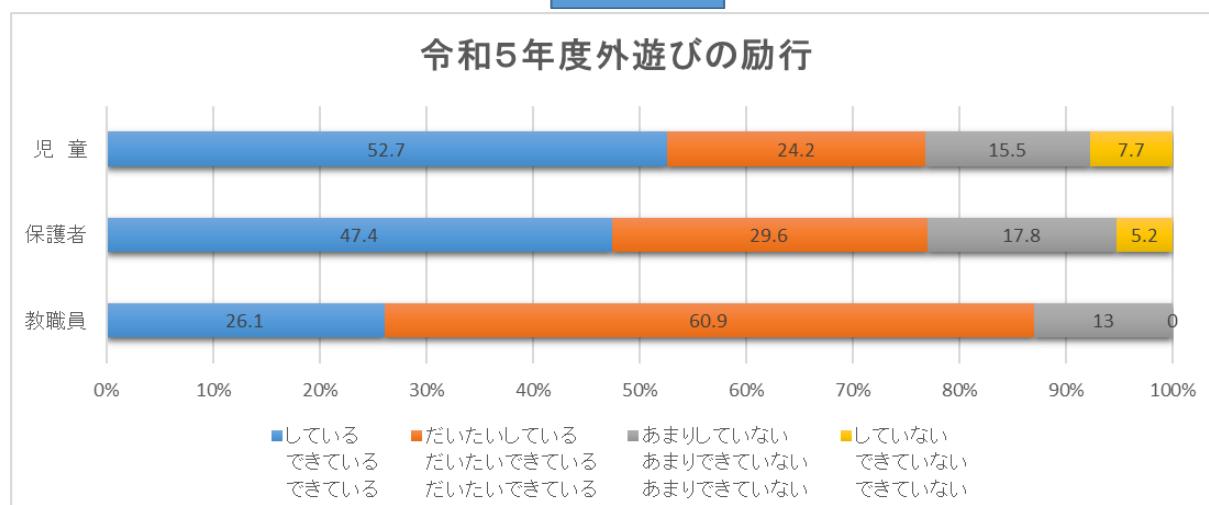
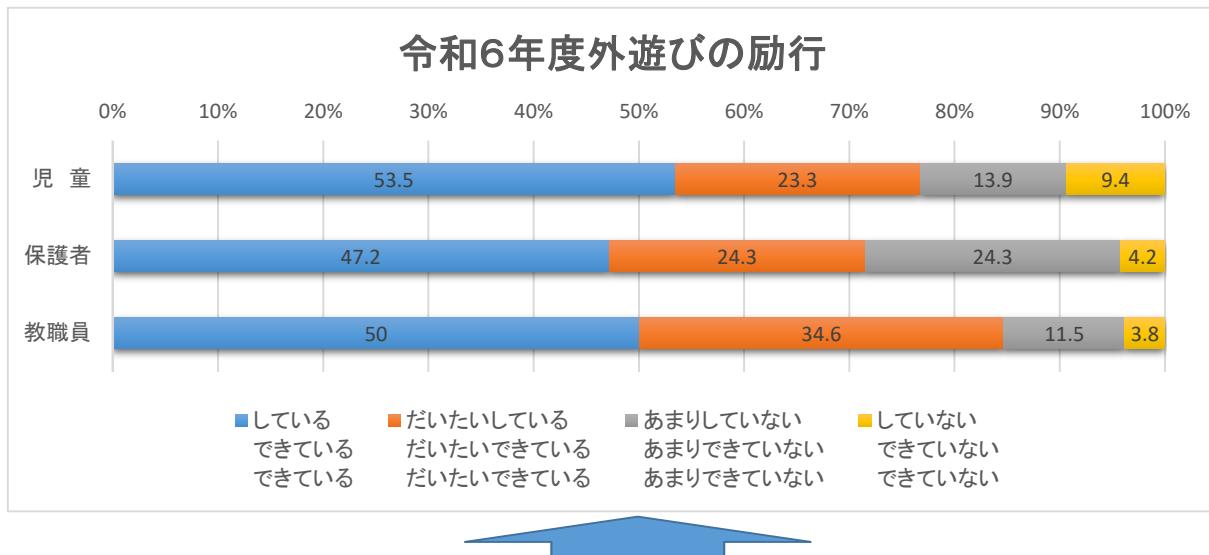
家庭でもテレビ・ゲーム・スマートフォンをする時間を決めるなどする中で、寝る時間等を習慣化していただくことで、家庭と学校が連携して、児童の基本的な生活習慣の改善に向けて今後も取り組んでいきたい。

## 調査結果と考察

### ⑧外遊びの励行

対象	質問事項			
	あなたは、学校の休み時間や放課後に外で運動遊びをしていますか？	お子様は、運動に親しむことができていますか？	学校やあなたは、外で運動遊びをする子どもを育てることができていますか？	
児童				
保護者				
教職員				

	している できている できている	だいたいしている だいたいできている だいたいできている	あまりしていない あまりできていない あまりできていない	していない できていない できていない	(%)
児童	53.5	23.3	13.9	9.4	児童 202名
保護者	47.2	24.3	24.3	4.2	保護者 144名
教職員	50	34.6	11.5	3.8	教職員 26名



肯定的に答えた児童は76.8%と昨年と同じであった。体育館の解放や運動委員会の「全校ドッジボール大会」「大縄跳び大会」など、休み時間の外遊び・運動に繋がる取組を今年度も実施している。休み時間の過ごし方には、個人差もあり強制はできない。ある一定数の児童はイン・ドア派で折り紙や読書などを楽しんでいる。運動委員会や運営委員会の企画した「全校ドッジ」や「全校逃走中」などにはほとんどの児童が参加し楽しみながら体を動かしている。今後も楽しい企画を計画しながら、体を動かす楽しさを味わわせて、外での遊び(運動)の良さを体感させ、生涯スポーツにつなげていきたい。

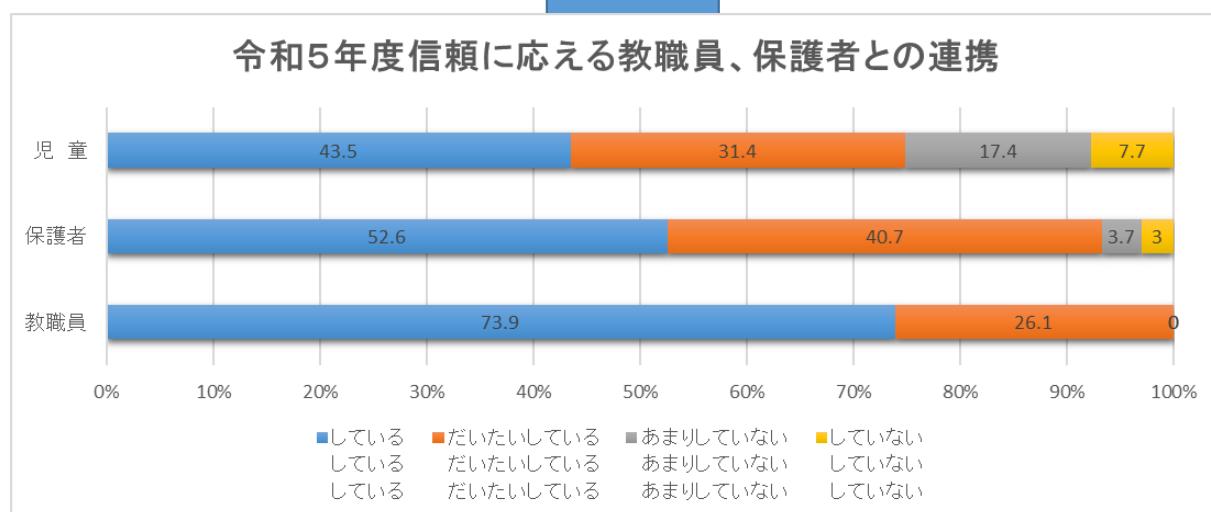
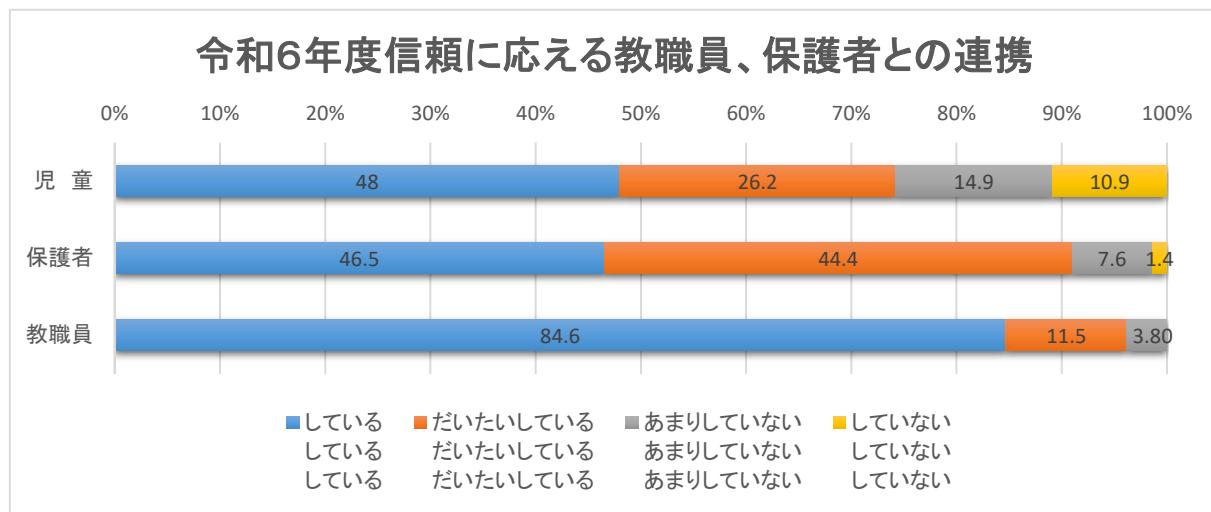
新庄北小学校は広い運動場があり、それに低学年広場もある。学校では、平日、運動場や低学年広場を開放している。次年度は、北小だより等で、開放時間等を伝え、放課後に課題である運動遊びができる場所も確保していきたい。

## 調査結果と考察

### ⑨信頼に応える教職員、保護者との連携

対象	質問事項				
	あなたは、困ったときに先生にも相談をしますか？	学校や教員は、お子様や保護者の相談(思いや考え方)を受け止めようとしていますか？	学校やあなたは、子どもたちや保護者の相談(思いや考え方)を受け止めようとしていますか？		
児童					
保護者					
教職員					

	している している している	だいたいしている だいたいしている だいたいしている	あまりしていない あまりしていない あまりしていない	していない していない していない	(%)	
					児童	202名
児童	48	26.2	14.9	10.9	児童	202名
保護者	46.5	44.4	7.6	1.4	保護者	144名
教職員	84.6	11.5	3.8	0	教職員	26名



肯定的な回答の児童が74.2%であった。「している」と回答した児童が約5ポイント増え48.0%であった。困ったときに先生に相談している児童が多くなった。しかし、昨年度と同様に約25%の児童が「あまりしていない」「していない」と回答しているので、児童が困ったときに担任だけでなく、北小学校の職員に相談できるように、児童の心に寄り添う指導・支援そして人間関係を今後も心がけていきたい。

保護者の肯定的な回答が昨年と同様9割であった。ほとんどの保護者が学校や教職員の姿勢や取組を肯定的に受け止めていただいている。今後も家庭訪問や個人懇談、学級懇談会、電話連絡等、家庭との連携を密にし、理解や協力が得られるように取り組んでいきたい。また、学校で取り組んでいる事柄など積極的に発信していくことも大切にていきたい。

教職員は「アンテナは高く、目線は低く」ということを常に意識しながら、児童の日々の変化を見逃さず、積極的に声かけをするとともに、児童の悩みや不安を相談しやすいような雰囲気の学校・学級づくりに努めていきたい。

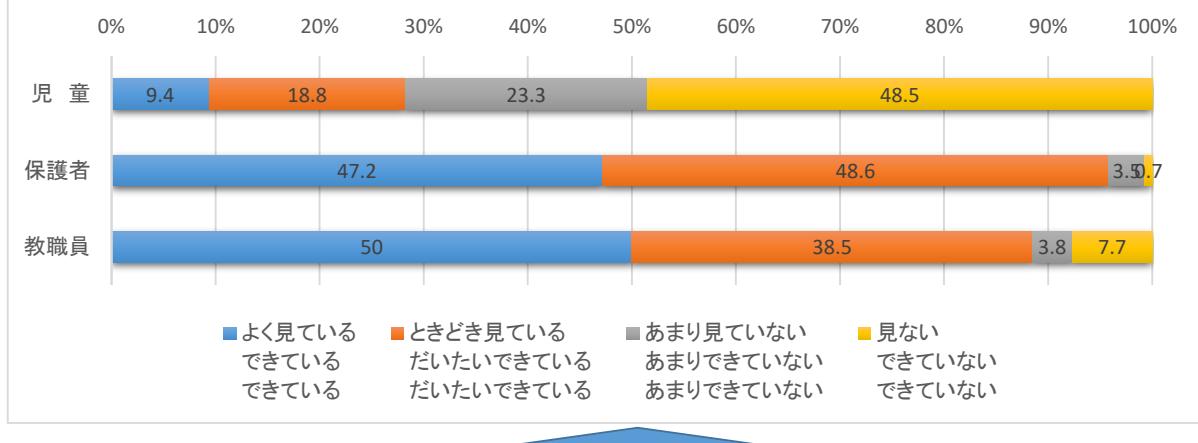
## 調査結果と考察

### ⑩学校での教育活動を積極的に発信

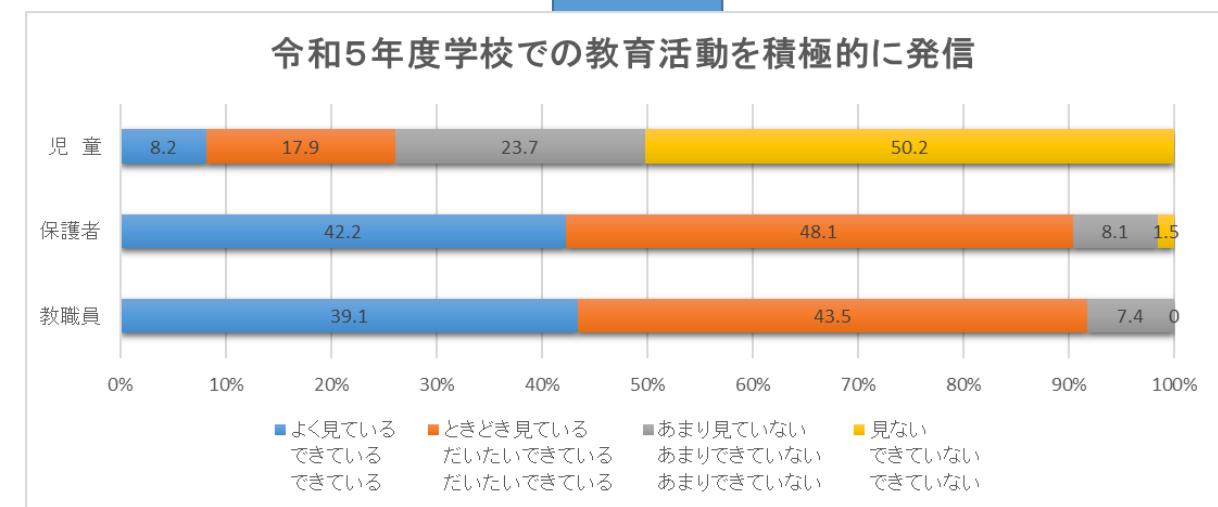
対象	質問事項			
児童	あなたは、学校のホームページをみますか？			
保護者	学校は、各種たよりやホームページ等を通して、家庭に学校の情報を伝えることができていますか？			
教職員	学校やあなたは、各種たより(学級通信等も含む)やホームページ等を通して、家庭に学校の情報を伝えることができていますか？			

	よく見ている できている できている	ときどき見ている だいたいできている だいたいできている	あまり見っていない あまりできていない あまりできていない	見ない できていない できていない	(%)
児童	9.4	18.8	23.3	48.5	児童 202名
保護者	47.2	48.6	3.5	0.7	保護者 144名
教職員	50	38.5	3.8	7.7	教職員 26名

### 令和6年度学校での教育活動を積極的に発信



### 令和5年度学校での教育活動を積極的に発信



今年度、子どもたちの様子、学校の行事を保護者に伝えていくこうと考え、ホームページには150回を超える記事をアップした。そのこともあり、学校の情報発信に肯定的な保護者の回答は昨年度から5ポイント増加して95.8%('できている'が5ポイント増加)であった。今後も、積極的にtetoru配信やホームページを活用し、学校の取組を発信していきたい。

しかし、昨年同様児童の肯定的な回答は28.2%であり、児童は学校のホームページをあまり見ていないことがわかった。給食時間の校長の放送でもホームページに触れ、自分たちの様子が掲載されていることを発信しているが、それだけでは、子ども達のホームページ閲覧には、つながっていない。児童にも身近にホームページに興味・関心をもって見る環境(学校HPのQRコードを教室に掲示するなど)を整えていきたい。

今後は、情報発信にかかる段取りを簡略にしたり、記事を見るためのパスワード設定についても検討していく必要がある。保護者だけでなく、地域の方や学校外の方にも北小っ子の様子を知ってもらえる機会をホームページを活用して発信していければと考えている。